

教科	国語	科目	論理国語	単位数	3単位	学年（コース）	2学年（国際文化科）
使用教科書	第一学習社『高等学校論理国語』						
副教材等	第一学習社『新訂七版新訂総合国語便覧（インストール版）』 いいずな書店『イラストとネットワーキングで覚える現代文単語げんたん（改訂版）』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜まず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</li> <li>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</li> <li>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</li> </ol>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</li> <li>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</li> <li>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</li> </ol>

### 2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</li> <li>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</li> <li>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ol>
--

### 3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけることを目指します。</li> <li>・他者との関わりの中で、論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養うことを目指します。</li> <li>・言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めることなどがある。言葉がもつ価値への認識を深めることを目指します。</li> </ul>
---

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

#### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習到達度確認問題 ・課題考査 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

#### 6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	評論(一)	2「A書くこと」 6「B読むこと」	郡司ペギオ幸夫 「天然知能として生きる」	・内容や構成、論理の展開を的確に捉えて筆者が定義する「天然知能」について把握したうえで、これからの人間の知性のあり方について、新たな観点から自分の考えを深めている。	8	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
5	評論(二)	2「A書くこと」 8「B読むこと」	森田良行 『私』中心の日本語	・具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。 ・日本語の特徴について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	10	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
6	評論(三)	3「A書くこと」 8「B読むこと」	清岡卓行 「手の変幻」	・筆者の感性や着眼点、表現の特徴について整理し、主張に説得力を持たせるための論展開について考える。 ・『欠落』や『無』が重要な役割を果たしている芸術作品について、調査したことをまとめたり発表したりする。	11	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)

7	研究論理 推論	3「A書くこと」 6「B読むこと」	仲島ひとみ 「推論とは何か」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する方法を学ぶ。</li> <li>・推論のしかたについて理解し、活用する方法を学ぶ。</li> </ul>	9	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認)
8 9	評論(四)	4「A書くこと」 8「B読むこと」	A I 時代の社会と法 小塚庄一郎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI (人工知能) の発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。</li> <li>・A I の発展がもたらす社会と法の関係の変化について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。</li> </ul>	1 2	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
10	評論(五)	4「A書くこと」 8「B読むこと」	生体認証技術の発展と未来 高橋麻子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体認証技術の持つ課題を文脈から把握し、それが現代社会に投げかける意味について考えを深める。</li> <li>・生体認証技術の持つ課題について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。</li> </ul>	1 2	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
11	評論(六)	4「A書くこと」 8「B読むこと」	「第二の身体」としてのメディアと技術 若林幹雄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアを「第二の身体」と捉える論理を把握し、自己と技術や道具との関係について考えを深める。</li> <li>・自己と技術や道具との関係について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。</li> </ul>	1 2	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
12	読み比べコミュニケーション	2「A書くこと」 5「B読むこと」	身体的表現の関係性 野村雅一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。</li> <li>・文章に関連した題材について、さまざまな観点から自分の考えを論述したり発表したりする。</li> </ul>	7	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
1	実用文(一)	2「A書くこと」 3「B読むこと」	法に関わる文章を読み比べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。</li> <li>・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。</li> </ul>	5	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
	レポートを書く	2「A書くこと」	資料を集めて情報を整理する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報を的確に整理する方法を理解し、設定した題材について分析した内容を、レポートにまとめる方法を学ぶ。</li> </ul>	2	レポート (記述の分析)

2	レポートを書く	2「A書くこと」	得られた情報を整理して分析して報告するテーマを絞り込む	・得られた情報から疑問点をあげていく方法を理解し、その疑問点を整理してテーマを絞り込む方法を理解する。 ・設定した題材について分析した内容を、レポートにまとめる方法を学ぶ。	2	レポート (記述の分析)
	レポートを書く	3「A書くこと」	構成を考えてレポートを書く	・レポートのアウトラインを作成する方法を理解し、実際にレポートを書く方法を理解する。	3	レポート (記述の分析)
3	レポートを書く	3「A書くこと」	書いたレポートを評価・分析して修正する	・書き上げたレポートを評価するポイントを理解し、指摘された修正点をふまえて、実際にレポートを修正できるようになる。	3	話し合いの様子 (行動の確認) レポート (記述の分析)

計 96 時間 (55 分授業)

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 36 時間	B「読むこと」 60 時間
-----------------	------------------	------------------

## 7 課題・提出物等

- ・毎週の小テストがあります。テスト範囲は、前週に指示します。基本的に副教材から出題します。
- ・単元ごとに、ワークシートを提出してもらいます。文章の理解度を確認します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(課題考査の出題範囲や指定図書のリポートなど)

## 8 担当者からの一言

「論理国語」は論理的・批判的に考える力をつけることによって、創造的に考えることができるようになることを目指しています。そのために、言葉の意味・用法を正しく理解し、正確に論旨を捉えるとともに、多面的な見方によって、新たなものの見方・考え方を身につけましょう。(担当：伊豫岡 健太)

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2単位	学年（コース）	2学年（情報科学科）
使用教科書	第一学習社『高等学校論理国語』						
副教材等	第一学習社『新訂七版新訂総合国語便覧（インストール版）』 いっずな書店『イラストとネットワーキングで覚える現代文単語げんたん（改訂版）』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜まず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</li> <li>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</li> <li>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</li> </ol>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</li> <li>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</li> <li>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</li> </ol>

### 2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</li> <li>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</li> <li>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ol>
--

### 3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけることを目指します。</li> <li>・他者との関わりの中で、論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養うことを目指します。</li> <li>・言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めることなどがある。言葉がもつ価値への認識を深めることを目指します。</li> </ul>
---

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

#### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習到達度確認問題 ・課題考査 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

#### 6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	評論(一)	1「A書くこと」 4「B読むこと」	郡司ペギオ幸夫 「天然知能として生きる」	・内容や構成、論理の展開を的確に捉えて筆者が定義する「天然知能」について把握したうえで、これからの人間の知性のあり方について、新たな観点から自分の考えを深めている。	5	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
5	評論(二)	1「A書くこと」 5「B読むこと」	森田良行 『私』中心の日本語	・具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。 ・日本語の特徴について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	6	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
6	評論(三)	2「A書くこと」 6「B読むこと」	清岡卓行 「手の変幻」	・筆者の感性や着眼点、表現の特徴について整理し、主張に説得力を持たせるための論展開について考える。 ・『欠落』や『無』が重要な役割を果たしている芸術作品』について、調査したことをまとめたり発表したりする。	8	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)

7	研究論理 推論	2「A書くこと」 3「B読むこと」	仲島ひとみ 「推論とは何か」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する方法を学ぶ。</li> <li>・推論のしかたについて理解し、活用する方法を学ぶ。</li> </ul>	5	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認)
8 9	評論(四)	2「A書くこと」 6「B読むこと」	小塚荘一郎 「AI時代の社会と法」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI(人工知能)の発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。</li> <li>・AIの発展がもたらす社会と法の関係の変化について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。</li> </ul>	8	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
10	評論(五)	2「A書くこと」 6「B読むこと」	高橋麻子 「生体認証技術の発展と未来」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体認証技術の持つ課題を文脈から把握し、それが現代社会に投げかける意味について考えを深める。</li> <li>・生体認証技術の持つ課題について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。</li> </ul>	8	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
11	評論(六)	2「A書くこと」 6「B読むこと」	若林幹雄 『『第二の身体』としてのメディアと技術』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアを「第二の身体」と捉える論理を把握し、自己と技術や道具との関係について考えを深める。</li> <li>・自己と技術や道具との関係について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。</li> </ul>	8	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
12	読み比べコミュニケーション	1「A書くこと」 3「B読むこと」	細川英雄 「対話の意味」 野村雅一 「身体的表現の関係性」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。</li> <li>・文章に関連した題材について、さまざまな観点から自分の考えを論述したり発表したりする。</li> </ul>	4	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
1	実用文(一)	1「A書くこと」 1「B読むこと」	法に関わる文章を読み比べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。</li> <li>・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。</li> </ul>	2	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
	レポートを書く	2「A書くこと」	資料を集めて情報を整理する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報を的確に整理する方法を理解し、設定した題材について分析した内容を、レポートにまとめる方法を学ぶ。</li> </ul>	2	レポート (記述の分析)

2	レポートを書く	2「A書くこと」	得られた情報を整理して分析して報告するテーマを絞り込む	・得られた情報から疑問点をあげていく方法を理解し、その疑問点を整理してテーマを絞り込む方法を理解する。 ・設定した題材について分析した内容を、レポートにまとめる方法を学ぶ。	2	レポート (記述の分析)
	レポートを書く	3「A書くこと」	構成を考えてレポートを書く	・レポートのアウトラインを作成する方法を理解し、実際にレポートを書く方法を理解する。	3	レポート (記述の分析)
3	レポートを書く	3「A書くこと」	書いたレポートを評価・分析して修正する	・書き上げたレポートを評価するポイントを理解し、指摘された修正点をふまえて、実際にレポートを修正できるようになる。	3	話し合いの様子 (行動の確認) レポート (記述の分析)

計 64 時間 (55 分授業)

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 24 時間	B「読むこと」 40 時間
-----------------	------------------	------------------

## 7 課題・提出物等

- ・毎週の小テストがあります。テスト範囲は、前週に指示します。基本的に副教材から出題します。
- ・単元ごとに、ワークシートを提出してもらいます。文章の理解度を確認します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(課題考査の出題範囲や指定図書のリポートなど)

## 8 担当者からの一言

「論理国語」は論理的・批判的に考える力をつけることによって、創造的に考えることができるようになることを目指しています。そのために、言葉の意味・用法を正しく理解し、正確に論旨を捉えるとともに、多面的な見方によって、新たなものの見方・考え方を身につけましょう。(担当：伊豫岡 健太)

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3単位	学年（コース）	2学年（国際文化科・情報科学科）
使用教科書	数研出版『古典探究 古文編』・数研出版『古典探究 漢文編』						
副教材等	ベネッセコーポレーション『ベネッセ全訳古語辞典（改訂版）』、第一学習社『改訂三版完全マスター古典文法』、第一学習社『新版完全マスター古典文法準拠ノート基礎固め』、桐原書店『漢文必携五訂版』、桐原書店『漢文必携チェックノート基本編五訂版』、尚文出版『新版理解を深める核心古文単語 351』、第一学習社『新版七訂新訂総合国語便覧インストール版』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</li> <li>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</li> <li>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</li> </ol>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</li> <li>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</li> <li>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</li> </ol>

### 2 学習目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</li> <li>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</li> <li>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</li> </ol>
---

### 3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、その文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して語感を磨くとともに、それを使って自分の考えや思いを適切に表現することを目指します。</li> <li>・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文法のきまりや語句、古典特有の表現などについて理解し、それを踏まえた上で本文を読み味わうことができるようになることを目指します。</li> <li>・様々な時代に書かれた散文や韻文を読み味わうことを通して、表現や構成の特色や文化的背景を踏まえた上で、そこに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し理解することを目指します。</li> </ul>
--

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。また、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うようにしている。

#### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習到達度確認問題 ・課題考査 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物 などの内容の確認 などから、評価します。

内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。

#### 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	説話	A読むこと	『十訓抄』 『沙石集』 『古今著聞集』	・読解に必要な文語のきまりの理解を深める。 ・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、説話の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。	8	話し合いの様子（行動の確認） ワークシート・ノート（記述の確認）
5	故事	A読むこと	『韓非子』 『世説新語』 『歴代名画記』 『説苑』	・読解に必要な訓読のきまりの理解を深める。 ・作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を的確に捉え、内容の理解を深める。 ・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。	8	話し合い・朗読・発表の様子（行動の確認） ワークシート・ノート（記述の確認）
6	歌物語	A読むこと	『伊勢物語』 『大和物語』	・古典特有の韻文の表現の理解を深める。 ・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、歌物語の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。	8	ワークシート・ノート（記述の確認）
7	漢詩	A読むこと	「中国の詩」 「日本の詩」	・漢詩のきまりや表現の理解を深める。 ・漢詩の表現技法を参考に漢詩を作り、発表する。 ・伝統的な形式的特徴を踏まえて、構成や展開などを的確に捉える。	8	話し合い・漢詩制作・発表の様子（行動の確認） ワークシート・ノート（記述の確認）

8	随筆 (一)	A読むこと	『枕草子』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読解に必要な文語のきまりや表現、作品の時代的文化的背景の理解を深める。</li> <li>・作品に表れているものの方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。</li> <li>・古典の言葉を現代の言葉と比較し、その変遷について考え、調べ、まとめる。</li> </ul>	8	話し合い・発表の様子(行動の確認) ワークシート・ノート(記述の確認) レポート(記述の分析)
9	随筆 (二) 日記文学(一)	A読むこと  A読むこと	『徒然草』 『方丈記』 『更級日記』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随筆を読み、人間、社会、自然などに対する作者の思想や感情を読み取る。</li> <li>・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、日記の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。</li> </ul>	4  4	話し合いの様子(行動の確認)  ワークシート・ノート(記述の確認)
10	史伝	A読むこと	『史記』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長い漢文を読み、文章の特色や登場人物の心情を理解する。</li> <li>・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。</li> <li>・作品に表れているものの方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。</li> </ul>	8	話し合い・朗読・発表の様子(行動の確認)  ワークシート・ノート(記述の確認)
11	物語	A読むこと	『源氏物語』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読解に必要な文語のきまりや表現を理解し、深める。</li> <li>・長い文章を読み、登場人物の心情を理解する。</li> <li>・作品に表れているものの方や感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり、深めたりする。</li> </ul>	8	話し合い・発表の様子(行動の確認)  ワークシート・ノート(記述の確認)
12	思想	A読むこと	『論語』 『孟子』 『荀子』 『老子』 『荘子』 『韓非子』 「未来に備える遺伝子」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸子百家の文章を読み、思想の概要や我が国の文化との関係について理解を深める。</li> <li>・古代中国の思想から現代に通ずるものの方や考え方を知り、自分の考えをまとめる。</li> <li>・古典にまつわる現代文を読み、古典作品や文章の価値について考察し、文章をまとめる。</li> </ul>	8	話し合い・発表の様子(行動の確認)  ワークシート(記述の点検)  ノート(記述の確認) レポート(記述の分析)
1	歴史物語	A読むこと	『大鏡』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の内容を構成や展開に即して理解を深める。</li> <li>・歴史物語を読み、登場人物の行動や心情を読み味わう。</li> <li>・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。</li> </ul>	8	話し合い・朗読・発表の様子(行動の確認)  ワークシート・ノート(記述の確認)
2	和歌・歌謡・俳諧	A読むこと	『古今和歌集仮名序』 「和歌」・「歌謡」 「江戸俳諧・発句」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の成立背景や、文化的背景を踏まえて内容の理解を深める。</li> <li>・古典を読み、その語彙や表現の技法を参考にし、和歌や俳諧を創作し、発表する。</li> </ul>	8	話し合い・発表の様子(行動の確認)  ワークシート・ノート(記述の確認)
3	文章	A読むこと	『漁父辞』 『桃花源記』 『売油王』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の成立背景や、文化的背景を踏まえて、内容や構成、表現の特色などを的確に捉える。</li> <li>・作品の現代における意義や価値などについて話し合い、考えをまとめる。</li> </ul>	8	話し合い・発表の様子(行動の確認)  ワークシート・ノート(記述の確認)

## ※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの	A「読むこと」
授業時数合計	96 時間

## 7 課題・提出物等

- ・週末課題を課し、その内容をもとに毎週 1 回学習到達度確認問題を行います。課題は提出を原則とします。範囲は学年便りで指示します。
- ・長期休業課題を課し、それをもとに課題考査を行います。課題は提出を原則とします。また定期考査を行います。それぞれ範囲は別途指示します。
- ・単元によって課題として感想シートやレポート、作品の提出などを課します。それに関しては別途指示が出ます。

## 8 担当者からの一言

- ①古典も近代以降の文章も、単語や語彙、文法に関する正しい理解がなければ、表現されているものを読み味わうことはできません。これらの力は地道な努力と積み重ねによって身につきます。日々の授業の他、学習内容確認問題や各種考査を活用して、確実な定着を目指しましょう。
- ②KJは授業第一主義です。授業を軸にして、予習・授業・復習・確認のサイクルをしっかりと築きましょう。予習時点で生じた疑問点は授業の中で解決し、そこで新たな疑問が生じた場合は復習時に質問するなどして、理解と定着を心掛けましょう。
- ③「古典探究」の授業では、1年生での「言語文化」の内容をうけて、時間や空間、表現形式を越えて、様々な作品を扱います。作品にはそれぞれの時代や文化、歴史的な背景があり、そこに生きる人たちの姿を伝えています。作品に触れて抱いた感想や考えを大切にしてください。また、読書を通してさらに多くのものの見方や感じ方、考え方、そして言葉や表現を吸収していきましょう。それが皆さん自身を形づくるものになります。
- (担当： 伊豫岡 健太)

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	2	学年 (コース)	2学年 (国際文化科)
使用教科書	新祥地理探究 (帝国書院)						
副教材等	新祥高等地図 (帝国書院) 新祥地理資料 COMPLETE (帝国書院) 新地理要点ノート (啓隆社)						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的・文化的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 3 指導の重点

①授業に集中すること。「どこで」「なぜ」という問題意識を常にもちながら、授業を受ける。こうした姿勢が、地理的な思考能力の向上につながる。

②知識を定着させる重要な手段が、週末課題と小テストである。この2つに真剣に取り組み、短いスパンで確実な知識定着を目指す。

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>地図や統計、画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取った図表にまとめたりしようとしている。</p>	<p>現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的・地誌的に考察し、公正に判断・表現しようとしている。</p>	<p>現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究しようとしている。</p>

## 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・地形図やグラフ、統計資料の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、週末課題などの内容の確認 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

## 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5 6	地形 気候 日本の自然環境 地球環境問題	地形と気候の成り立ちを理解する 15時間	「新祥地理探究」 （帝国書院）	・地形の分布や成因、基本的な形成や仕組みについて理解する。 ・世界の気候について理解する。 ・日本・世界の自然の特徴や災害について理解する。	15	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認 前期中間考査
7 8 9	農林水産業 食料問題 エネルギー・鉱山資源 資源・エネルギー 工業 3次産業	産業の構成を理解する 16時間		・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象理解する。 ・それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	16	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認 前期期末考査
10 11	交通・通信 観光 貿易と経済圏	産業の世界的つながりを理解する 11時間		・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。	11	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
12 1	人口 人口問題 村落と都市 都市・居住問題	村落の形成と都市問題について理解する 11時間		・増加する世界人口と世界各地の人口の増減や分布、年齢別構成、移動には、どのような特徴がみられるかについて理解している。 ・村落や都市の立地や発達、形態、変容のしかたにみられる傾向や規則性、国や地域によって異なる地域性について理解している。	11	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
2 3	衣食住 民族・宗教と民族問題	文化の違いを理解する		・自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きと	11	学習到達度確認テスト 作業プリント

	国家の領域と領土問題	11 時間			どのように関わっているかについて理解している。 国家の領域と領土問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。		の確認
--	------------	-------	--	--	--	--	-----

計 64 時間 (55 分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・ 2週間に1回位のペースで到達度確認テストがあります。
- ・ 週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。

## 8 担当者からの一言

- ①地理は復習重視の科目である。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的である。そのためには何よりも授業への集中が大前提である。
- ②新聞やニュースは地理ネタの宝庫である。世界の今に興味をもち、なぜそうなっているのかを考えてみるのが、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。
- ③模試は、受けるたびに必ず復習する。授業で学んだ知識が本当に活用できるのか、新たな視点や最新の統計を用いた出題にはどのようなものがあるのかなど、模試から学べることは実に多い。

(担当：氏名) 三浦 俊亮

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	2	学年（コース）	2学年（国際文化科）
使用教科書	山川出版社『詳説日本史』						
副教材等	第一学習社『最新日本史図表』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜まず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

<p>社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に理解するとともに、我が国の歴史に関する様々な事情を、適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察するとともに、効果的に説明・議論する力を養う。</p> <p>③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する深い理解、他国や他国の文化や思想を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

### 3 指導の重点

<p>①我が国の歴史の展開に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現させることを目指します。</p> <p>②学習到達度確認問題で歴史事象に関する基礎的知識の定着を図ります。また、授業の中で得た歴史的思考力、判断力を演習問題等でさらに認識を深めることを目指します。</p>
---

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解するとともに、我が国の歴史に関する様々な事情を、適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察するとともに、効果的に説明・議論する力を身につけている	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する深い理解、他国や他国の文化や思想を尊重することの大切さについての自覚などを身につけている

#### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認テスト ・課題などの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。

内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。

#### 6 学習計画

月	単元名	授業時間と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 ・ 5 月	第1章 日本文化の あけぼの 第2章 古墳とヤマト 政権	3・文化の始まり 3・農耕社会の成立 3・古墳文化の展開 4・飛鳥の朝廷	山川出版社 『詳説日本史』	・日本列島と日本人の始まりを、旧石器時代から縄文時代への移行を通して理解する。 ・弥生時代の農耕生活から小国の分立への経緯を理解する。 ・ヤマト政権の成立過程、古墳や大陸との関係について理解する。 ・ヤマト政権の発展と飛鳥の文化について理解する。	13	定期考査 学習到達度 確認テスト 課題 授業態度
	第3章 律令国家の 形成 第4章 貴族政治の 展開	3・律令国家への道 3・平城京の時代 1・律令国家の文化 3・律令国家の変容 3・摂関政治		・律令国家の成立過程と古代政治について理解する。 ・奈良時代の対外関係や土地制度、白鳳期の文化について理解する。 ・平安遷都と地方支配を中心に、貴族社会と政治形態の変容について理解する。	13	
7 ・ 8 ・ 9 月	第4章 貴族政治の 展開 第5章 院政と武士 の躍進	1・国風文化 3・地方政治の展開と武士 3・院政の始まり 3・院政と平氏政権		・国風文化成立の背景と浄土教の流行について理解する。 ・地方支配の変化に伴う武士の成長の過程を理解する。 ・摂関政治から院政への推移、院政と武士の関わりについて理解する。	10	

10 ・ 11 ・ 12 月	第6章 武家政権の 成立	4・鎌倉幕府の成立 4・武士の社会 4・モンゴル襲来と幕府の衰退 2・鎌倉文化	・初の武家政権である鎌倉幕府の成立と朝幕関係について理解する。 ・北条氏の台頭と執権政治、武家社会のしくみについて理解する。 ・モンゴル襲来が幕府支配に与えた影響と鎌倉文化について理解する。	14
1 ・ 2 ・ 3 月	第7章 武家社会の 成長	4・室町幕府の成立 4・幕府の衰退と庶民の台頭 2・室町文化 4・戦国大名の登場	・南北朝の動乱を経て、京都に誕生した室町幕府の成立について理解する。 ・守護大名と一揆発生が幕府に与えた影響と室町文化について理解する。 ・応仁の乱後の下剋上の時代と戦国大名の領国支配について理解する。	14

計 64 時間 (55 分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・学習到達度確認テストをおこないます。範囲はテスト前に提示します。
- ・週末課題や長期休業中の課題は、別途指示します。

## 8 担当者からの一言

- ①日本史は復習重視の科目です。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的です。そのためには何よりも授業への集中が大前提となります。
- ②ニュースや新聞を読むことにより、日本と世界の今に興味をもち、その背景を考えることが、授業への関心を高め、知識を増やすことにつながります。(担当：伊藤 一億)

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	2単位	学年（科）	2学年（国際文化科）
使用教科書	山川出版社『詳説世界史』						
副教材等	第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』、とうほう『ウィニングコンパス世界史の整理と演習 2024』、山川出版社『詳説世界史10分間テスト 世界史探究』						

## 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜まず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</li> <li>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</li> <li>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</li> </ol>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</li> <li>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</li> <li>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</li> </ol>

## 2 学習目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。</p> <p>(2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、それらを説明したり、議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
---

## 3 指導の重点

- ① 歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わり精選しつつ着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、諸国家の社会や文化の特色などをより多面的・多角的に考察し、表現させることを目指します。
- ② 学習到達度確認問題で歴史事象に関する基礎的知識の定着を図ります。また、授業の中で得た歴史的思考力、判断力を演習問題等でさらに認識を深めることを目指します。

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、それらを説明したり、議論したりする力を身に付けている	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

#### 5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・学習到達度確認テスト ・課題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題 ・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題 ・授業態度 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。

#### 6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5	第1章 文明の成立 と古代文明 の特質	6時間 1 文明の誕生 2 古代オリエント文明 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明	山川 出版 社 『	・人類の進化や文明誕生の道のりを理解する。 ・西アジア文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解する。	6	定期考査  学習到達度 確認テスト
5 6	第2章 中央ユーラ シアと東ア ジア世界	6時間 1 中央ユーラシア 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成	詳 説 世 界 史 』	・秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解する。	6	課題（ワー クブック、 作業プリン ト等）  授業態度

6 7	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	6時間 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開		・仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家などを基に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解する。	6	
7 8	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	7時間 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展		・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教の成立などを基に、西アジアと地中海周辺の諸国家の歴史的特質を理解する。	7	
9 10	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	6時間 1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成		・キリスト教とイスラームを基盤とした国家の形成などを基に、ヨーロッパと西アジアにおけるキリスト教とイスラームを基盤とした国家の歴史的特質を理解する。	6	
10 11	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	6時間 1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向		・イスラーム教の伝播と西アジアの動向（特に南アジア・アフリカ地域へのイスラーム化及び西アジアのイスラーム化）についての歴史的特質を理解する。	6	
11 12	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	7時間 1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化	山川出版社 『詳説世界史』	・ヨーロッパ世界の変容と展開について（特に十字軍や商業・都市の発展及び西ヨーロッパ諸国の中央集権化）の歴史的特質を理解する。	7	課題（ワークブック、作業プリント等） 授業態度
1 2	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	6時間 1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国		・中国の宋とモンゴル帝国（元）の歴史的特質を理解する。 ・アジア諸地域の自立化の歴史的特質を理解する。	6	

2	第9章 大交易・大 交流の時代	7時間 1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出と アメリカ大陸の変容	・中国の明を中心とするアジア 交易世界の歴史的特質を理解 する。 ・ヨーロッパの海洋進出につい て「世界の一体」との関連も踏 まえつつ歴史的特質を理解す る。	7	
2 3	第10章 アジアの諸 帝国の繁栄	7時間 1 オスマン帝国とサファヴ ィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域	・イスラームの国家（オスマン 帝国・ムガル帝国を中心に）の 歴史的特質を理解する。 ・東アジアの多民族国家である 清朝の歴史的特質を理解する。	7	

計 64 時間 (55 分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・学習到達度確認テストをおこないます。範囲はテスト前に提示します。
- ・週末課題は、適宜提出してもらいます。長期休業中の課題は、別途指示します。

## 8 担当者からの一言

- ・授業に臨む姿勢として、授業の前に教科書を読んできましょう。事前に読むだけでも授業における理解度は高まります。慣れてきたら積極的に教科書を中心にして予習をしましょう。
- ・授業後は、ノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的です。そのためには何よりも授業への前向きな姿勢が大前提となります。
- ・時代の流れの“縦軸”と、同じ時代の各国・地域どうしのつながりである“横軸”を結びつけて考えつつ、学習していきましょう。
- ・世界の今に興味をもち、その背景を考えることが、授業への関心を高め、知識を増やすことにつながります。日々ニュースや新聞を読むことを心がけよう。

地歴公民科：山崎 剛志

教科	公民	科目	公共	単位数	2単位	学年（コース）	2学年 （国際文化科・情報科学科）
使用教科書		「公共」（実教出版）					
副教材等		・「政治・経済」（数研出版） ・サクシート政経／公共（2024年度版）（啓隆社） ・4ステージ演習ノート政治・経済（数研出版） ・その他、プリント、ワークなど必要に応じて使用					

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

### 2 学習目標

<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>（1）現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>（2）現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>（3）よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>
---

### 3 指導の重点

- ①現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したこと議論する力を養う。
- ③現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代社会を理解する上で必要となる基本事項や追究の方法を理解し、身につけている。また、統計資料や画像などから必要な情報を収集し、それらを使って自分の考えをまとめることができる。	・現代社会の諸問題を理解し、福祉や公正といった公共的な観点を踏まえて思考・判断し、他者に対して自分の考えを適切に表現することができる。	現代社会の基本事項から課題点を導き出し、その問題の解決策等を導こうとしている。また、適切な資料を用いるなどして、公共的な視点から自分の考えをまとめようとしている。

### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認テスト ・課題などの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

### 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	社会を作る私たち	・青年期とは ・自己形成の課題 (5時間)	「公共」 (実教出版)、「政治・経済」 (数研出版)	人生における青年期の意義について学び、自己形成の課題について考察する。	5	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト
5	人間としてよく生きる	・古代ギリシアの人間観 ・科学と人間 (6時間)		哲学の誕生について学ぶとともに、人間の倫理観の始まりについて考察することで、自らの生き方を考える。	6	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト
6	他者とともに生きる	・人間と幸福 ・公正な社会をめざして (6時間)		人間とは何か。私たちの社会はどのようにして作られ、維持されてきたのか。その思想的な背景を考察する。	6	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト

						定期考査
7 8	民主社会の倫理	・人間の尊厳と平等 ・自由・権利と責任・債務 (5時間)		人権の普遍性を捉えることを通して、自己の尊厳だけでなく他者の尊厳をも尊重することの重要性を学ぶ。	5	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト
9	民主国家における基本原理	・民主政治の成立 ・民主政治の基本原則 (6時間)		民主主義の成り立ちと基本原理およびそれを支える思想について学ぶ。	6	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト 定期考査
10	日本国憲法の基本的性格	・日本国憲法の基本的性格 ・人権の広がりと公共の福祉 (10時間)		日本国憲法の特徴と成立までの歴史的背景を理解し、現在に至る人権の歴史と広がりについて学ぶ。	7	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト
11	日本の政治機構と政治参加	・政治機構と国会 ・世論と政治参加 (7時間)		行政・立法・司法の機構のあり方と課題について理解する。 地方自治や選挙制度を学び、民主政治の現状と課題を理解する。	7	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト 定期考査
12	現代の経済社会	・経済主体と経済活動の意義 ・経済社会の変容 (6時間)		経済の基本理論と資本主義経済の特徴を歴史的展開の中で理解する。	6	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト
1	日本経済の特質と国民生活	・戦後日本経済の成長と課題 ・転機に立つ日本経済 (7時間)		日本経済の現状と、労働問題、社会保障問題等について理解する。	7	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト
2	国際政治の動向と課題	・国際社会と国際法 ・国際平和と日本の役割 (5時間)		国際社会における諸機構や制度について広い視野で学ぶ。紛争の原因となる問題の背景や、軍縮について学ぶ。	5	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト 定期考査
3	国際経済の動向と課題	・国際経済のつながりと課題 ・発展途上国の諸課題と日本の役割 (4時間)		国際経済の動向や経済のグローバル化などについて学び、世界経済における日本の役割について考察する。	4	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト

計 64 時間 (55 分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・毎月、学習到達度確認テストを行います。範囲等はテスト前に提示します。
- ・週末課題を課します。長期休業中の課題等は別途指示します。課題は単にこなすだけの「作業」に終わらず、学習内容の定着を目指して行いましょう。

## 8 担当者からの一言

- ①予習より復習重視の科目です。授業後に、ノートの見直しや教科書等による復習を行うと効果的です。
- ②新聞やニュースは授業で扱う事項の宝庫です。日々起こっている出来事に興味をもち、その背景を考えてみることで、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながります。(担当：清水 仁)

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3	学年（コース）	2学年（国際文化科）
使用教科書	数研出版『NEXT 数学Ⅱ』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学Ⅱ+B』 啓林館『Focus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜まず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

「図形と方程式」「三角関数」「指数関数と対数関数」「微分法と積分法」の単元を学ぶ中で、これらの基本的な概念を理解するとともに、事象を数学的に解釈、表現、処理する技能を身に付けられるようにする。

### 3 指導の重点

- ①授業において知識・技能を身に付けるとともに、事象を数学的にとらえ、考察・表現する意欲をもてるよう指導します。
- ②基本的な計算力や技能を身に付けられるように、毎日の授業中、計算練習に取り組みます。また、日々課題・週末課題を設定し、確実な習得と定着を目指します。
- ③学習到達度確認問題と定期考査で基本的な計算力と技能、表現を習得しているかを確認し、生徒全員がこれらの力を身に付けることを徹底します。

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な計算能力、知識・技能、問題処理能力を身に付けている。	計算などにより得られた結果から、数学的にどのようなことが考察され、結論づけられるか論理的に思考・判断し、それらを正しく表現できている。	自分の考えを深めようと粘り強く活動している。

## 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点をふまえ、 ・学習到達度確認問題  などから、評価します。	以上の観点をふまえ、 ・考査  などから、評価します。	以上の観点をふまえ、 ・日々課題、週末課題、長期休業中課題の提出 ・自主的に取り組んだ問題の提出 ・学習到達度確認問題 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

## 6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5	図形と方程式  【単元考査】		・円  ・軌跡と領域	・円の方程式 ・円と直線 ・2つの円 ・軌跡と方程式 ・不等式の表す領域	25	日々課題 週末課題 学習到達度確認問題 定期考査
6	三角関数		・三角関数  ・加法定理	・角の拡張 ・三角関数の性質 グラフ 応用 ・加法定理の応用 ・三角関数の合成	16	
7 8	指数関数と対数関数  【前期中間考査】 【夏課題考査】		・指数関数  ・対数関数	・指数の拡張 ・指数関数 ・対数とその性質 ・対数関数 ・常用対数	8 10	
12	微分法 積分法		・微分係数と導関数 ・関数の値の変化 ・積分法	・微分係数 ・導関数 ・接線の方程式 ・関数の増減と極大・極小 ・グラフの応用 ・不定積分 ・定積分 ・面積	10 12	
1 2 3	【冬課題考査】 総合演習			総合演習	14	

計 96時間 (55分授業)

## 7 課題・提出物等

日々課題

週末課題

長期休業中課題

## 8 担当者からの一言

- ①数学Ⅱでは、第一に計算能力が必要です。日々課題を通して、計算スピード・暗算力を上げる努力をしましょう。
- ②授業中に理解できないところがあった場合は、その場で質問し、あいまいさを残さないようにしましょう。
- ③応用力をつけるには、教科書で取り上げられている内容がすべて定着している必要があります。授業・日々課題・週末課題で内容を完全に定着させ、学習到達度問題でその度合いを確認します。もし不十分なところがあれば、解消会で定着を徹底します。

(担当: 沖坂 彰子)

教科	数学	科目	数学B	単位数	2	学年（コース）	2学年（国際文化科）
使用教科書	数研出版『NEXT 数学B』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学II+B』 啓林館『Focus Gold Smart 数学II+B+ベクトル(数学C)』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜まず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

「数列」「統計的な推測」の単元を学ぶ中で、これらの基本的な概念を理解するとともに、事象を数学的に解釈、表現、処理する技能を身に付けられるようにする。

### 3 指導の重点

- ①授業において知識・技能を身に付けるとともに、事象を数学的にとらえ、考察・表現する意欲をもてるよう指導します。
- ②基本的な計算力や技能を身に付けられるように、毎日の授業中、計算練習に取り組みます。また、日々課題・週末課題を設定し、確実な習得と定着を目指します。
- ③学習到達度確認問題と定期考査で基本的な計算力と技能、表現を習得しているかを確認し、生徒全員がこれらの力を身に付けることを徹底します。

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な計算能力、知識・技能、問題処理能力を身に付けている。	計算などにより得られた結果から、数学的にどのようなことが考察され、結論づけられるか論理的に思考・判断し、それらを正しく表現できている。	自分の考えを深めようと粘り強く活動している。

## 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点をふまえ、 ・学習到達度確認問題  などから、評価します。	以上の観点をふまえ、 ・考査  などから、評価します。	以上の観点をふまえ、 ・日々課題，週末課題，長期休業中課題の提出 ・自主的に取り組んだ問題の提出 ・学習到達度確認問題 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

## 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
8 9	数列  【前期期末考査】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・等差数列</li> <li>・等比数列</li> <li>・いろいろな数列</li> <li>・漸化式と数学的帰納法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等差数列とその和</li> <li>・等比数列とその和</li> <li>・<math>\Sigma</math></li> <li>・階差数列</li> <li>・いろいろな数列の和</li> <li>・漸化式</li> <li>・数学的帰納法</li> </ul>	35	日々課題 週末課題 学習到達度確認問題 定期考査
11 12	統計的な推測  【後期中間考査】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・確率分布</li> <li>・統計的な推測</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確率変数 確率分布</li> <li>・期待値 分散</li> <li>・確率変数の和と積</li> <li>・二項分布 正規分布</li> <li>・母集団と標本</li> <li>・標本平均の分布</li> <li>・推定</li> <li>・仮説検定</li> </ul>	29	

計 64時間 (55分授業)

## 7 課題・提出物等

日々課題  
週末課題  
長期休業課題

## 8 担当者からの一言

数学Bでは、数列の単元では文字式の細かい計算、統計の単元では小数の細かい計算が必要とされます。また、計算だけでなく内容の抽象度がより高まります。授業中に理解できなかったところがある場合は、その場で質問し、あいまいさを残さないようにしましょう。  
(担当：沖坂 彰子)

教科	数学	科目	数学C	単位数	1	学年（コース）	2学年（国際文化科）
使用教科書	数研出版『NEXT 数学C』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学C [ベクトル]』 啓林館『Focus Gold Smart 数学II+B+ベクトル(数学C)』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜まず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

「ベクトル」の単元を学ぶ中で、これらの基本的な概念を理解するとともに、事象を数学的に解釈、表現、処理する技能を身に付けられるようにする。
--

### 3 指導の重点

<p>①授業において知識・技能を身に付けるとともに、事象を数学的にとらえ、考察・表現する意欲をもてるよう指導します。</p> <p>②基本的な計算力や技能を身に付けられるように、毎日の授業中、計算練習に取り組みます。また、日々課題・週末課題を設定し、確実な習得と定着を目指します。</p> <p>③学習到達度確認問題と定期考査で基本的な計算力と技能、表現を習得しているかを確認し、生徒全員がこれらの力を身に付けることを徹底します。</p>
---

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な計算能力、知識・技能、問題処理能力を身に付けている。	計算などにより得られた結果から、数学的にどのようなことが考察され、結論づけられるか論理的に思考・判断し、それらを正しく表現できている。	自分の考えを深めようと粘り強く活動している。

## 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点をふまえ、 ・学習到達度確認問題  などから、評価します。	以上の観点をふまえ、 ・考査  などから、評価します。	以上の観点をふまえ、 ・日々課題、週末課題、長期休業中課題の提出 ・自主的に取り組んだ問題の提出 ・学習到達度確認問題 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

## 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
10	平面上のベクトル  【単元考査】		・ベクトルと演算  ・ベクトルと平面図形	・ベクトル ・ベクトルの成分表示 ・内積 ・位置ベクトル ・図形への応用 ・ベクトル方程式	20	日々課題 週末課題 学習到達度確認問題 定期考査
11	空間のベクトル  【単元考査】			・空間の点 ・空間のベクトル ・座標空間における図形	12	

計 32時間 (55分授業)

## 7 課題・提出物等

日々課題  
週末課題

## 8 担当者からの一言

- ①数学Cでは、初めてベクトルという概念について学びます。はじめは不思議な概念のように思うかもしれませんが、実はプラスマイナスの考えとよく似ています。ベクトルの概念が定着するように、授業中に理解できないところがあった場合は、その場で質問し、あいまいさを残さないようにしましょう。
- ②応用力をつけるには、教科書で取り上げられている内容がすべて定着している必要があります。授業・日々課題・週末課題で内容を完全に定着させ、学習到達度問題でその度合いを確認します。もし不十分なところがあれば、解消会で定着を徹底します。

(担当：沖坂 彰子)

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	学年 (コース)	2学年 (国際文化科)
使用教科書	数研出版『化学基礎』						
副教材等	第一学習社『セミナー化学基礎』 実教出版『サイエンスビュー化学総合資料』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

### 3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な化学的事象に関心を持ち、それらの事象を化学的に分析しようとする態度を養う。</li> <li>・ 実験やモデルを通じた活動を通して、化学的に思考する能力と態度を育てる。</li> <li>・ 基本的な概念や原理・法則を理解する。</li> </ul>
---

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解できる。</li> <li>・観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探究することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現する事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的に物事を考えようとしている。</li> <li>・基本的な事項を習得するために、日常的に学習に取り組むことができる。</li> </ul>

#### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・授業内の実験及び演習</li> <li>・発問に対する回答</li> </ul> などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・授業中の活動への取組状況</li> <li>・授業内の実験及び演習</li> </ul> などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習到達度確認問題</li> <li>・実験レポート</li> <li>・授業中の活動への取組状況</li> </ul> などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

#### 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	第1編 第1章 物質の構成	5	教科書 セミナー 化学基礎	多種多様な物質を観察することによってそれらを整理・分類し、共通した要素や、個々の相違点を調べることによって、物質の成り立ちを追求する。	5	学習到達度確認問題 課題提出状況 前期中間考査
5	第1編 第2章 物質の構成粒子	6		物質を理解する基礎として、物質を構成する基礎的な粒子である原子と、原子から生じるイオンや原子が種々の方法で結合した物質について、その構造や表しかた、それらの関係を学ぶ。	6	
6	第1編 第3章 粒子の結合	2「イオン結合」 3「共有結合」 2「分子間力」		原子やイオンがどのようなしくみで結合しているかを詳しく学び、代表的な物質や身の	7	

7		2「高分子化合物・共有結合の結晶」 2「金属結晶」 2「化学結合と結晶まとめ」		回りでどのように利用されているかを学ぶ。	6	学習到達度確認問題 課題提出状況 前期期末考査
8 9	第2編 第1章 物質と化学反応式	2「原子量・分子量・式量」 5「物質質量」		原子量概念を理解することにより、分子量や式量の定義を学ぶ。 物質質量概念を理解することによって微小な粒子の質量や気体の体積の数値的な扱い方を体得する。	7	
10		2「溶液の濃度」 5「化学反応式と物質質量」		溶液の濃度について、モル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。 化学変化を化学反応式で表すことを学び、それをもとにして化学反応式が表す量的関係を把握できるようになる。	7	学習到達度確認問題 課題提出状況 後期中間考査
11	第2編 第2章 酸と塩基の反応	1「酸と塩基」 2「水素イオンとpH」 4「中和反応と塩」	教科書 セミナー 化学基礎	酸・塩基の定義を学び、その酸性・塩基性の強さの度合いの表し方を学ぶ。 酸と塩基が中和するとき塩と水が生成することを学ぶ。また、塩の定義と分類の方法について理解する。	7	
12		6「中和滴定」		中和反応における量的関係、および酸・塩基の強弱との関係を理解する。また、滴定操作により酸や塩基の濃度を求められることを実験を通して理解し、計算方法も体得する。さらに、滴定曲線と指示薬の関係も理解する。	6	学習到達度確認問題 課題提出状況 後期期末考査
1	第2編 第3章 酸化還元反応	2「酸化と還元」 4「酸化剤と還元剤」		電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学び、酸化・還元の定義を理解する。酸化数の考え方を理解し、その変化から酸化還元反応を考えることができるようになる。	6	

2		2「金属の酸化還元反応」 2「酸化還元反応の利用」		金属のイオン化傾向を理解し、金属のイオン化傾向と金属単体の化学的性質が密接に関係していることを学ぶ。 金属を利用することによって電池ができることを学ぶ。 あわせて、金属を鉱石から製錬する方法についても理解する。	4	
3	終章 化学が拓く世界	3		今までに学んできたことが、日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解する。	3	

計 64 時間 (55 分授業)

## 7 課題・提出物等

週末課題にはきちんと取り組み、提出してください。

## 8 担当者からの一言

化学をはじめとした自然科学では、ものごとを客観的に考える態度を学ぶことができます。

化学とは、“もの” そのものが何であるかを考える学問です。世界はすべて“もの” から構成されており、化学を学ぶことは自分自身を含めた世界の全体像を理解することにつながります。

化学をより良く理解するためには、何より身のまわりにある“もの” が何でできているかに興味をもつことが一番大切です。ぜひ身近な物質に対する好奇心を大切に、授業を受けてみてください。(担当：金安 奨太郎)

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	学年 (コース)	2 学年 (情報科学科)
使用教科書	数研出版『化学基礎』						
副教材等	第一学習社『セミナー化学基礎+化学』 実教出版『サイエンスビュー化学総合資料』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解する。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</li> <li>観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</li> <li>物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</li> </ul>
--

### 3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な化学的事象に関心を持ち、それらの事象を化学的に分析しようとする態度を養う。</li> <li>実験やモデルを通じた活動を通して、化学的に思考する能力と態度を育てる。</li> <li>基本的な概念や原理・法則を理解する。</li> </ul>
---

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解できる。</li> <li>観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探究することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に観察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的に物事を考えることができる。</li> <li>基本的な事項を習得するために、日常的に学習に取り組むことができる。</li> </ul>

## 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業内の実験及び演習 ・発問に対する回答 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業中の活動への取組状況 ・授業内の実験及び演習 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習到達度確認問題 ・実験レポート ・授業中の活動への取組状況 などから、評価します。
内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

## 6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法		
4	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	1 混合物と純物質 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動	「化学基礎」 (数研出版)	・多種多様な物質を観察することによってそれらを整理・分類し、共通した要素や、個々の相違点を調べることによって、物質の成り立ちを追求する。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書中の問題・実験・活動等に取り組ませる。</li> <li>学習到達度確認問題に取り組ませる。</li> <li>身の回りの疑問について調査を行い、報告させる。</li> <li>日常的に学習に取り組んだ成果を報告させる。</li> <li>定期考査に取り組ませる。</li> </ul>		
	第2章 物質の構成粒子	1 原子とその構造 2 イオン 3 周期表		・物質を理解する基礎として、物質を構成する基礎的な粒子である原子と、原子から生じるイオンや原子が種々の方法で結合した物質について、その構造や表しかた、それらの関係を学ぶ。	6			
5	第3章 粒子の結合	1 イオン結合とイオン結晶 2 共有結合と分子 3 配位結合 4 分子間にはたらく力 5 高分子化合物 6 共有結合の結晶 7 金属結合と金属結晶		・物質が連続性をもたない小さな粒子からなることは中学でも学習しているが、個々の粒子がどのようなしくみで結合しているかは、簡単に触れただけで終わっている。ここではそれをさらに詳しく扱うことによって、物質の性質との関連も同時に学ぶ。 ・前期中間考査	11			
	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式	1 原子量・分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質質量		・原子の質量はきわめて小さいため、原子量という概念によって異なる元素の原子の質量が比較しやすくなることを理解する。それをもとに、分子量や式量の定義を学ぶ。	14			
6								
7	第2章 酸と塩基の反応	1 酸・塩基 2 水素イオン濃度とpH 3 中和反応と塩 4 中和滴定		・酸・塩基の定義や酸性・塩基性について、その本質が何であるかを考え、酸性・塩基性の強さの度合いの表し方を学ぶ。また、pHの表し方・中和の量的関係を学び、中和によって生じる塩の水溶液は必ずしも中性でないことにもふれる。	14			
8								

9	第3章 酸化還元反応	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前章では水素イオンの授受によって酸・塩基を考えてきたが、ここでは電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。</li> <li>・電池や電気分解、金属の精錬等について酸化還元反応とあわせて学習する。</li> <li>・前期末考査</li> </ul>	14	

計 64 時間 (55 分授業)

\*第2学年前期に化学基礎(2単位)をまとめて履修し、後期に化学(3単位)をまとめて履修する。

## 7 課題・提出物等

週末課題では基礎固めに重点を置きます。何事も基礎が大切です。

## 8 担当者からの一言

化学は「物質」について学ぶ学問です。その一番の基礎にあたるのが本科目です。この世界の「もの」は「物質」からできています。もちろん人間などの動物も「物質」からできています。大げさに感じるかもしれませんが、広く考えて物質を学べば自分自身を知ることにもつながっていくと思います。学問と世の中のつながりを意識しながら学んでいくと興味関心が高まると思います。(担当：平田 幸一)

教科	保健体育	科目	体育	単位数	2	学年（コース）	2学年 国際文化科 情報科学科
使用教科書	大修館書店 『現代高等保健体育』						
副教材等							

## 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

## 2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

### 3 指導の重点

- ①各種の運動をととして運動技能の向上を図り、バランスのとれた身体の発達を促すとともに、公正・協力・責任などの態度を育てる。
- ②自分の興味ある種目を選択し、積極的にその種目に取り組む。
- ④ 運動する習慣を身に付け、基礎体力と柔軟性の向上を目指す。

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種目における記録測定</li> <li>・各種目における技能テスト</li> <li>・体育理論の考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の、活動内容をよく理解して自分なりに考えながら練習している</li> <li>・グループ活動などの際に、仲間と協力しながら最も合理的な練習方法を考えて行動している。</li> <li>・その日の活動内容に沿った適切な服装をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の技能と体力の中で精一杯取り組んでいる。</li> <li>・準備運動や、用具の準備・片付けなどに積極的に取り組んでいる。</li> </ul>

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

### 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	体力づくり	体づくり運動	トレーニング	柔軟性・筋力作りのトレーニングの基礎を学び健康の保持増進を目指す。	7	授業の取り組み
5	持久走	体づくり運動	持久走	約5kmを走りきれ体力をつけ、計測を行う	8	持久走の練習とタイム計測
6	器械体操と陸上競技の選択	器械体操 陸上競技	鉄棒または跳び箱の選択 ハードルと走り幅跳び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器械体操は鉄棒・または跳び箱を選択し、基本的な技ができるようにする</li> <li>・陸上競技はハードルと走り幅跳びの2種目を行い、記録を計測する。</li> </ul>	10	技能テスト 記録計測 前期期末考査 授業ノート

7 8	01 技能と体力 02 技術と戦術 03 上達過程と練習 04 効果的な動き 05 体力トレーニング 06 安全確保	体育理論	体育理論	・教科書を用いながら、スポーツにおける技能と体力、偽寿と戦術の違い、効果的な練習方法、筋肉が収縮する仕組み、速筋・遅筋の違い、各種トレーニングの方法、安全な運動の仕方を学ぶ。	6	
9	選択種目	屋外球技	テニス サッカー ソフトボール の選択	テニス（ネット型） サッカー（ゴール型） ソフトボール（ベースボール型） の3つの球技の中から1種目を選択し、基礎技能を習得し、最終的にはゲームができるようになる。	1 1	授業への取り組み 基礎技能
10 11	柔道	武道	柔道	・1年次より、高度な投技と固め技が使えるようになる。	1 0	技能テスト
12 1 2	選択球技	屋内球技	バレーボール バスケットボール バドミントン 卓球の中から 1種目を選択する	バレーボール（ネット型） バスケットボール（ゴール型） バドミントン（ネット型） 卓球（ネット型）の4種目の中から1種目を選択し、基礎技能を習得し、最終的にはゲームができるようになる。	1 1	授業の取り組み 基礎技能
3	体力作り	身体づくり	学校体操 トレーニング	冬季の間に落ちた体力をトレーニングによって取り戻す	1	授業への取り組み

単元、教材が変更になることもある  
計66時間（55分授業）

## 7 課題・提出物等

・体育理論の授業ノートまたは授業プリント

## 8 担当者からの一言

- ①自分自身の健康や体力に関心を持とう。
- ②各領域の運動特性を理解しよう。
- ③生涯にわたってスポーツを主体的に実践していく態度と方法を身に付けよう。（担当：佐藤 卓哉）

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1	学年（コース）	2 学年 国際文化科 情報科学科
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』						
副教材等	大修館書店『図説現代高等保健』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
--

### 3 指導の重点

<p>①生涯を通じるライフステージの中で、各段階ごとの健康課題について学び、自身の生活に役立てることができるようになること。</p> <p>②健康作りのためには安全な環境がなければならないが、その環境を守っていくための個人としての対策、そして社会全体で取り組む課題について学ぶ。</p>
---

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養うなどしている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付けようとしている。

#### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査での点数</li> <li>授業中の発問に対する返答などから評価します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みの「課題のレポート」提出</li> <li>「課題研究発表」を聞いた上で、自分で作成するレポート提出などから評価します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の発言や態度</li> <li>授業中にとったノートを年に数回提出させるなどから評価します。</li> </ul>

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

#### 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	生涯を通じる健康	3	01 ライフステージと健康 02 思春期と健康	・ライフステージ毎の健康課題にはどのようなものがあるか理解する。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な授業態度</li> <li>発問に対する返答</li> <li>前期期末考査</li> </ul>
5 6	生涯を通じる健康	7	03 性意識と性行動の選択 04 妊娠・出産と健康 05 避妊法と人工妊娠中絶 06 結婚生活と健康 07 中高年期と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性の性周期について理解する。</li> <li>男性の生殖器について理解する。</li> <li>性意識と性行動には男女で差があることを理解する。</li> <li>受精・妊娠・出産はどのような過程を経ていくのかを理解する</li> <li>避妊法と、人工妊娠中絶について正しい知識を学ぶ。</li> </ul>	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業ノートの提出</li> </ul>
7	生涯を通じる健康	3	08 09 労働 01 大気汚染 02 水質汚濁・土壌汚染	<ul style="list-style-type: none"> <li>結婚生活とそれに関わって知っておかなければならない責任や健康課題について理解する。</li> <li>中高年期の健康課題について理解する。</li> </ul>	3	提出された課題研究レポートによる評価
8	健康を支える環		03 環境と健康			

	境作り		<p>に関わる対策</p> <p>04 ゴミの処理</p> <p>05 食品の安全性</p> <p>06 食品衛生にかかわる活動</p>	<p>以下の7つのテーマで班分けを行い、全員がそれぞれのテーマの中から1つを選び教科書の内容を深掘りして課題研究を行う。</p> <p>①労働災害の防止</p> <p>②大気汚染</p> <p>③水質汚濁</p> <p>④土壌汚染</p> <p>⑤環境と健康に関わる対策</p> <p>⑥ゴミの処理と上下水道</p> <p>⑦食品衛生</p>		
8		1		<p>自分が課題研究した内容を夏休みの課題としてレポートにまとめて提出する。</p>	1	
9 10	健康を支える環境作り	8	<p>08 09労働</p> <p>01 大気汚染</p> <p>02 水質汚濁・土壌汚染</p> <p>03 環境と健康に関わる対策</p> <p>04 ゴミの処理</p> <p>05 食品の安全性</p> <p>06 食品衛生にかかわる活動</p>	<p>・各班で、自分たちが課題研究したテーマについてタブレットを用いて発表する。</p> <p>・発表を聞いているメンバーはメモを取りながら発表を聞き、内容を要約したレポートを作成して提出する。</p>	8	<p>・各班の発表の様子による評価</p> <p>・各班の発表を聞いて内容を要約したレポートによる評価</p> <p>前期期末考査による評価</p> <p>授業ノートによる評価</p>
11 12 1 2 3	健康を支える環境作り	10	<p>07 保健サービスとその活用</p> <p>08 医療サービスとその活用</p> <p>09 医薬品の制度とその活用</p> <p>10 様々な保健活動や社会的対策</p> <p>11 健康に関する環境作り</p>	<p>・保健行政の種類について学ぶ</p> <p>・保健所と保健センターの違いについて理解する</p> <p>・医療保健の仕組みや年齢による自己負担の割合を理解する。</p> <p>・インフォームド・コンセントやセカンドオピニオンについて理解する。</p> <p>・一般用医薬品と医療用医薬品の違いについて理解する。</p> <p>・過去に起こった薬害や、薬害を起こさないための対策について学ぶ</p> <p>・WHO や UNICEF など国際間で働く組織と日本赤十字社など国内で働く組織について理解する。</p>	10	<p>・積極的な授業態度</p> <p>・発問に対する返答</p> <p>・後期期末考査</p> <p>・授業ノートの提出</p>

計32時間 (55分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・課題研究レポート
- ・課題研究発表の要約や意見をまとめた発表の記録
- ・授業ノート      その他、適宜指示があります。

## 8 担当者からの一言

・2学年では「生涯を通じる健康」と「健康を支える環境作り」を学びます。今後の実生活に関連する内容ばかりです。特に妊娠・出産などについては誰もが正しい知識を持つておくことが大切です。また、地球温暖化の防止などには、一人の力でなく、社会全体で取り組む必要があります。自分と社会の将来のためにしっかりと学習してください。(担当：佐藤 卓哉)

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	学年（コース）	2 学年
使用教科書	大修館書店 クリエイティブ・リビング家庭基礎で生活をつくろう						
副教材等	教育図書 LIFE おとなガイド						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
---

### 3 指導の重点

<p>目まぐるしく変化する社会の中で自己の課題を理解し、互いを理解しあう考え方や、健康で安全な生活をおくるための知識、技術、持続可能な社会生活との関わり方を習得する。</p>
---

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとしている。

#### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ノート、プリント学習</li> <li>・実習、製作の完成度</li> </ul> などから、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ノート、プリント学習</li> <li>・実習、製作レポート</li> </ul> などから、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・実習、製作の取り組み</li> <li>・グループ学習</li> </ul> などから、評価します。

内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。

#### 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	家庭基礎を学ぶ 家庭クラブとホームプロジェクト	家庭	導入 青年期の課題 ノート、プリント	各単元の流れ、家庭科の目標	2	レポート ノート 授業の発問態度
5	青年期の課題  衣生活	家庭、家族、 青年期  衣生活	青年期の課題 プリント  衣生活実習	自分の将来について考える ライフスタイル、ライフステージの課題 ミシン製作と製作の知識	4  8	プリント  裁縫技能
6 7	衣生活のマネジメント 生活のデザイン	衣生活	衣生活における合理性、ノート 生活デザイン	被服素材の知識、特徴、手入れ 身の回りの諸課題解決レポート ホームプロジェクト	2	衣生活実験  レポート
8 9	食生活のマネジメント 前期考査	食生活	食の現状 ノート	食や栄養の知識、食文化の理解 栄養素のはたらき 安全、衛生的な調理実習	1 4	調理実習の取り組み、プリント、レポート

10	食生活のマネジメント	食生活	食生活の諸問題	食生活をめぐる問題についての理解	4	プリント ノート
11	子どもの生活 高齢期の生活 共生社会、環境	子ども、高 齢者 共生社会	子どもの生活 高齢期の生活 共生	子どもの心身の発達、発達課題 高齢期の特徴 (DVD 視聴、グループ学 習)	4 4 4	子ども、高齢 期 DVD レポー ト
12	消費生活マネジメント	消費、家庭 経済	副教材、おと なノート	誰もが住みやすい持続可能な社会 経済的な自立、家庭経済の収支	10	副教材
2	学年末考査 住生活 ライフプラン	住生活 家族	住居実習 自分の未来	住まいのはたらき、住居シールの 製作 ライフプランをたてる	6 2	実習ノート 作品

計64時間 (55分授業)

## 7 課題・提出物等

授業ノート、プリント、実習や製作の調理物、作品 振り返りレポート等

## 8 担当者からの一言

近い将来の独り立ちにむけて、諸契約に関する知識と行動のしかたが求められています。その意思決定にはどのようなプロセスがあるか、主体的に学んでください。

教科	理数	科目	理数数学Ⅱ	単位数	5	学年（コース）	2学年（情報科学科）
使用教科書	数研出版『NEXT 数学Ⅱ』『NEXT 数学B』『NEXT 数学C』『NEXT 数学Ⅲ』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学Ⅱ+B』『CONNECT 数学Ⅲ+C』 啓林館『Focus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)』 『Focus Gold Smart 数学Ⅲ+複素数平面・式と曲線(数学C)』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

<p>「図形と方程式」「三角関数」「指数関数と対数関数」「微分法と積分法」「数列」「統計的な推測」「ベクトル」の単元を学ぶ中で、これらの基本的な概念を理解するとともに、事象を数学的に解釈、表現、処理する技能を身に付けられるようにする。</p>
---

### 3 指導の重点

<p>①授業において知識・技能を身に付けるとともに、事象を数学的にとらえ、考察・表現する意欲をもてるよう指導します。</p> <p>②基本的な計算力や技能を身に付けられるように、毎日の授業中、計算練習に取り組みます。また、日々課題・週末課題を設定し、確実な習得と定着を目指します。</p> <p>③学習到達度確認問題と定期考査で基本的な計算力と技能、表現を習得しているかを確認し、生徒全員がこれらの力を身に付けることを徹底します。</p>
---

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な計算能力，知識・技能，問題処理能力を身に付けている。	計算などにより得られた結果から，数学的にどのようなことが考察され，結論づけられるか論理的に思考・判断し，それらを正しく表現できている。	自分の考えを深めようと粘り強く活動している。

#### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点をふまえ， ・学習到達度確認問題  などから，評価します。	以上の観点をふまえ， ・考査  などから，評価します。	以上の観点をふまえ， ・日々課題，週末課題，長期休業中課題の提出 ・自主的に取り組んだ問題の提出 ・学習到達度確認問題 などから，評価します。

内容のまとめりごとに，各観点「A：十分満足できる」，「B：おおむね満足できる」，「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。

#### 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5	図形と方程式  【単元テスト】		・円  ・軌跡と領域	・円の方程式 ・円と直線 ・2つの円 ・軌跡と方程式 ・不等式の表す領域	30	日々課題 週末課題 学習到達度確認問題 定期考査
6	三角関数		・三角関数  ・加法定理	・角の拡張 ・三角関数の性質 グラフ 応用 ・加法定理の応用 ・三角関数の合成	20	
7 8	指数関数と対数関数  【前期中間考査】 【夏課題考査】		・指数関数  ・対数関数	・指数の拡張 ・指数関数 ・対数とその性質 ・対数関数 ・常用対数	9 9	
9	数列		・等差数列 ・等比数列 ・いろいろな数列  ・漸化式と数	・等差数列とその和 ・等比数列とその和 ・ $\Sigma$ ・階差数列 ・いろいろな数列の和 ・漸化式	20	

	【前期期末考査】		学的帰納法	・数学的帰納法		
10	平面上のベクトル  【単元テスト】		・ベクトルと演算  ・ベクトルと平面図形	・ベクトル ・ベクトルの成分表示 ・内積 ・位置ベクトル ・図形への応用 ・ベクトル方程式	2	2
	空間のベクトル			・空間の点 ・空間のベクトル ・座標空間における図形	1	0
11	統計的な推測  【後期中間考査】		・確率分布  ・統計的な推測	・確率変数 確率分布 ・期待値 分散 ・確率変数の和と積 ・二項分布 正規分布 ・母集団と標本 ・標本平均の分布 ・推定 ・仮説検定	2	0
12	微分法 積分法  【後期期末考査】		・微分係数と導関数 ・関数の値の変化 ・積分法	・微分係数 ・導関数 ・接線の方程式 ・関数の増減と極大・極小 ・グラフの応用 ・不定積分 ・定積分 ・面積	1	0  1

計 160時間 (55分授業)

## 7 課題・提出物等

日々課題 週末課題 長期休業中課題
-------------------------

## 8 担当者からの一言

<p>①数学では、第一に計算能力が必要です。日々課題を通して、計算スピード・暗算力を上げる努力をしましょう。</p> <p>②授業中に理解できないところがあった場合は、その場で質問し、あいまいさを残さないようにしましょう。</p> <p>③応用力をつけるには、教科書で取り上げられている内容がすべて定着している必要があります。授業・日々課題・週末課題で内容を完全に定着させ、学習到達度問題でその度合いを確認します。もし不十分なところがあれば、解消会で定着を徹底します。</p> <p style="text-align: right;">(担当: 沖坂 彰子)</p>
--

教科	理数	科目	理数数学特論	単位数	1	学年（コース）	2学年（情報科学科）
使用教科書	数研出版『NEXT 数学Ⅱ』『NEXT 数学B』『NEXT 数学C』『NEXT 数学Ⅲ』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学Ⅱ+B』『CONNECT 数学Ⅲ+C』 啓林館『Focus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)』 『Focus Gold Smart 数学Ⅲ+複素数平面・式と曲線(数学C)』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

<p>「関数」「極限」の単元を学ぶ中で、これらの基本的な概念を理解するとともに、事象を数学的に解釈、表現、処理する技能を身に付けられるようにする。</p>
---

### 3 指導の重点

<p>①授業において知識・技能を身に付けるとともに、事象を数学的にとらえ、考察・表現する意欲をもてるよう指導します。</p> <p>②基本的な計算力や技能を身に付けられるように、毎日の授業中、計算練習に取り組みます。また、日々課題・週末課題を設定し、確実な習得と定着を目指します。</p> <p>③学習到達度確認問題と定期考査で基本的な計算力と技能、表現を習得しているかを確認し、生徒全員がこれらの力を身に付けることを徹底します。</p>
---

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な計算能力，知識・技能，問題処理能力を身に付けている。	計算などにより得られた結果から，数学的にどのようなことが考察され，結論づけられるか論理的に思考・判断し，それらを正しく表現できている。	自分の考えを深めようと粘り強く活動している。

#### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点をふまえ， ・学習到達度確認問題  などから，評価します。	以上の観点をふまえ， ・考査  などから，評価します。	以上の観点をふまえ， ・日々課題，週末課題，長期休業中課題の提出 ・自主的に取り組んだ問題の提出 ・学習到達度確認問題 などから，評価します。

内容のまとまりごとに，各観点「A：十分満足できる」，「B：おおむね満足できる」，「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

#### 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1	【冬課題考査】 関数  【後期期末考査】			・分数関数 ・無理関数 ・逆関数 ・合成関数	10	日々課題 週末課題 学習到達度確認問題 定期考査
2	極限		・数列の極限  ・関数の極限	・無限等比数列 ・無限級数 ・片側極限 両側極限 ・三角関数の極限 ・連続	22	
3	【単元テスト】					

計 32時間 (55分授業)

#### 7 課題・提出物等

日々課題  
週末課題  
長期休業中課題

## 8 担当者からの一言

- ①数学では、第一に計算能力が必要です。日々課題を通して、計算スピード・暗算力を上げる努力をしましょう。
- ②授業中に理解できないところがあった場合は、その場で質問し、あいまいさを残さないようにしましょう。
- ③応用力をつけるには、教科書で取り上げられている内容がすべて定着している必要があります。授業・日々課題・週末課題で内容を完全に定着させ、学習到達度問題でその度合いを確認します。もし不十分なところがあれば、解消会で定着を徹底します。

(担当: 沖坂 彰子)

教科	理数	科目	理数物理	単位数	3	学年（コース）	2学年（情報科学科）
使用教科書	・東京書籍『物理』						
副教材等	・数研出版『新課程リードα物理基礎・物理』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め、科学的な自然観を育成する。

### 3 指導の重点

法則や式の意味を考え、必要な問題演習を確保し、「丸暗記」に頼らず、物理的な思考ができるようにする。また、実験的な要素も取り入れ、視覚的なイメージを持つことができるようにする。

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探究することができる。</p> <p>・自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解している。</p>	<p>身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現する事ができる。</p>	<p>自然現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的に物事を考えようとしている。</p>

## 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト、学習到達度確認問題 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物の内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト、学習到達度確認問題 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物の内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト、学習到達度確認問題 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物の内容の確認 などから評価します。

内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。

## 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	力と運動	力学 (44時間)	教科書 副教材	平面上の運動と放物運動	8	学習到達度確認問題 提出物の確認 中間考査
5				剛体にはたらく力	9	
6				円運動と万有引力	9	
7				単振動	9	学習到達度確認問題 提出物の確認 期末考査
8 9				運動量と力積	9	
10	熱	熱 (18時間)		気体分子の運動と圧力	9	学習到達度確認問題 提出物の確認 中間考査
11				気体の状態変化	9	
12	波動	波動 (34時間)		波の性質	9	学習到達度確認問題 提出物の確認 期末考査
1				音の伝わり方	9	
2 3				光	16	

計 96 時間 (55 分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・各月に数回の小テストがあります。テスト範囲は、その都度、連絡します。
- ・実験、観察を行った場合、レポートの作成と提出があります。
- ・長期休業中の課題は、別途指示します。

## 8 担当者からの一言

自然界には不思議なことがたくさんあります。物理学はそのような自然界の法則を発見する学問です。世界がどのようにできているのかを知りたい、という純粋な探究心が科学や物理を発展させてきました。物理学の発展を体験しながら、探究的に学習を進めていきましょう。(担当：志賀)

教科	理数	科目	理数化学	単位数	3	学年 (コース)	2学年 (情報科学科)
使用教科書	数研出版『化学』						
副教材等	第一学習社『セミナー化学基礎+化学』		実教出版『サイエンスビュー化学総合資料』				

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<b>グラデュエーション ポリシー</b>	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
<b>カリキュラム ポリシー</b>	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

### 2 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解する。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</li> <li>観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</li> <li>物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</li> </ul>
--

### 3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な化学的事象に関心を持ち、それらの事象を化学的に分析しようとする態度を養う。</li> <li>実験やモデルを通じた活動を通して、化学的に思考する能力と態度を育てる。</li> <li>基本的な概念や原理・法則を理解する。</li> </ul>
---

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解できる。</li> <li>観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探究することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的に物事を考えることができる。</li> <li>基本的な事項を習得するために、日常的に学習に取り組むことができる。</li> </ul>

## 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業内の実験及び演習 ・発問に対する回答 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業中の活動への取組状況 ・授業内の実験及び演習 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習到達度確認問題 ・実験レポート ・授業中の活動への取組状況 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

## 6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
9	第1編 物質の状態 第1章 結晶とアモルファス	1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶 5 共有結合の結晶	「化学」(教研出版)	・「化学基礎」では、イオン結合、共有結合、金属結合でできた物質について学習しているので、本章ではそれらの知識と関連付けながら固体の結晶格子の概念とそれぞれの結晶の構造について理解する。	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書中の問題・実験・活動等に取り組みさせる。</li> <li>学習到達度確認問題に取り組みさせる。</li> <li>身の回りの疑問について調査を行い、報告させる。</li> <li>日常的に学習に取り組んだ成果を報告させる。</li> <li>定期考査に取り組みさせる。</li> </ul>
	第2章 物質の状態変化	1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧		・「化学基礎」では、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について学習している。本章では、状態変化に伴うエネルギーの出入りや化学結合と融点・沸点の関係を理解するとともに、気液平衡や蒸気圧、状態図についても理解する。	5	
10	第3章 気体	1 気体の体積 2 気体の状態方程式 3 混合気体の圧力 4 実在気体		・「化学基礎」では、標準状態における物質と気体の体積との関係について学習している。本章では、理想気体の状態方程式について理解をし、それを利用した分子量計算についても理解する。また、混合気体に対する考え方や実在気体と理想気体の違いについても理解する。	11	
	第4章 溶液	1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液		・「化学基礎」では、溶液のモル濃度について学習している。本章では、溶解のしくみを理解するとともに、固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。また、希薄溶液とその性質やコロイド溶液の性質について、身近な現象と結びつけながら理解する。 ・後期中間考査	13	
11	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	1 化学反応と熱 2 ヘスの法則 3 化学反応と光		・本章では、化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が熱の発生や吸収となって現れ、その熱量の変化をエンタルピー変化として記述することを理解する。さらにヘスの法則を用いることで、測定が困難な反応エンタルピーを求めることができることを理解する。また、化学反応には光の発生や吸収も伴うものがあることも、具体的な反応を交えながら理解する。	8	

	第2章 電池と電気分解	1 電池 2 電気分解		・「化学基礎」では、酸化還元反応が電子の授受によることや金属のイオン化傾向、ダニエル電池の反応について学習をしている。本章では、電気エネルギーを取り出す電池のしくみを酸化還元反応と関連付けて理解する。	9	
12	第3章 化学反応の速さとしくみ	1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応のしくみ	「化学」 (数研出版)	・本章では、化学反応の反応速度の表し方とともに、反応速度と反応条件（濃度、温度、触媒）の関係や反応のしくみ、触媒の利用について理解する。	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書中の問題・実験・活動等に取り組みさせる。</li> <li>学習到達度確認問題に取り組みさせる。</li> <li>身の回りの疑問について調査を行い、報告させる。</li> <li>日常的に学習に取り組んだ成果を報告させる。</li> <li>定期考査に取り組みさせる。</li> </ul>
1	第4章 化学平衡	1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡		・本章では可逆反応と化学平衡、ルシャトリエの原理に基づく化学平衡の移動について理解する。また「化学基礎」では酸や塩基の強弱と電離度の大小との関係、水素イオン濃度とpHとの関係について学習しているが、本章では電解質水溶液における電離平衡について理解し、濃度や電離度と電離定数の関係やそれらを利用したpHの求め方を理解する。またこれらの考え方をを用いた緩衝液や溶解度積についても理解する。	15	
2	第3編 無機物質 第1章 非金属元素	1 元素の分類と周期表 2 水素・希ガス元素 3 ハロゲン元素 4 酸素・硫黄 5 窒素・リン 6 炭素・ケイ素		・「化学基礎」では、元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係、化学結合に関連して幾つかの無機物質について学習している。本章では元素を周期表に基づいて族ごとに分類し、性質が似た元素の単体や化合物ごとにその性質を理解する。	9	
	第2章 金属元素(I)～典型元素～	1 アルカリ金属元素 2 アルカリ土類金属元素 3 アルミニウム・スズ・鉛		・本章では、非金属元素と同様に典型非金属元素もその性質が周期表に基づいて整理できることを理解し、それぞれの典型金属元素の単体や化合物の性質を理解する。	7	
3	第3章 金属元素(II)～遷移元素～	1 遷移元素の特徴 2 鉄 3 銅 4 銀・金 5 亜鉛 6 クロム・マンガン 7 その他の金属元素 8 金属イオンの分離・確認	・本章では、遷移元素の単体とその化合物の性質について理解する。遷移元素が典型元素と違い、同一周期でその性質が似ていることを理解したうえで、身近な金属である鉄や銅、銀、亜鉛などを中心に、単体や化合物、イオンなど特徴的な性質を理解する。	7		

計96時間 (55分授業)

\*第2学年前期に化学基礎(2単位)をまとめて履修し、後期に化学(3単位)をまとめて履修する。

## 7 課題・提出物等

週末課題ではそれぞれの単元の基礎固めに重点を置きます。

## 8 担当者からの一言

化学基礎から少し踏み込んだ内容に移行し、理論を用いて「物質」について更なる理解を深めていく分野になります。特に無機化学・有機化学では実験を通して「物質」に触れる機会がより多くなります。

身近な生活の中に生きている化学を感じながら興味関心を高めていってほしい。(担当：平田 幸一)

教科	理数	科目	理数生物	単位数	3	学年（コース）	2学年（情報科学科）
使用教科書	・数研出版『生物』						
副教材等	・数研出版『リードα生物』 ・浜島書店『二訂版ニューステージ生物図表』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜まず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</li> <li>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</li> <li>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</li> </ol>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</li> <li>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</li> <li>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</li> </ol>

### 2 学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学探究するために必要な資質・能力を育成する。

### 3 指導の重点

生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするとともに、科学的に探究する力を養う。  
生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けようとしている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しようとしている。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

## 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

## 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	第1章 生物の進化	生物の進化 (26時間)	教科書 副教材	・生命の起源と生物の進化	8	学習到達度確認 問題 提出物の確認 中間考査
5				・遺伝子の変化と多様性 ・遺伝子の組み合わせの変化	9	
6				・進化のしくみ ・生物の系統と進化 ・人類の系統と進化	9	
7	第2章 細胞と分子	細胞と分子 (18時間)		・生体物質と細胞 ・タンパク質の構造と性質	9	学習到達度確認 問題 提出物の確認 期末考査
8				・化学反応にかかわるタンパク質	3	
9				・膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	6	
10	第3章 代謝	代謝 (18時間)		・代謝とエネルギー ・呼吸と発酵	9	学習到達度確認 問題 提出物の確認 中間考査
11				・光合成	9	
12				・DNAの構造と複製 ・遺伝情報の発現	9	
1	第4章 遺伝情報の発現と発生	遺伝情報の発現と発生 (34時間)		・遺伝子の発現調節	9	学習到達度確認 問題 提出物の確認 期末考査
2				・発生と遺伝子発現	9	
3				・遺伝子を扱う技術	7	

計 96 時間 (55 分授業)

## 7 課題・提出物等

週末課題、長期休業課題、実験レポート、授業ノートやプリント、ワークシートの提出を課します。(別途指示します。)

## 8 担当者からの一言

①授業内での理解を目指しましょう。

授業の前にあらかじめ教科書を読み、分かりにくい部分や疑問点を探しましょう。授業でとるノートは、授業の内容を思い出し、定着させるためにとるものと認識してください。つまり、授業中に生じた疑問や解説も書くようにしましょう。多くの生物用語が出てきますが、その意味を理解し、適切に使えるようにしましょう。実際にいる身近な生き物や様々な生命現象を、学んだ知識と関連付けて理解するように学習しましょう。各種課題の作成においては、自ら関心をもって調べるなど、積極的に取り組みましょう。

②家庭学習は復習を中心に取り組みましょう。

家庭学習では、問題集を中心に、授業で取り組んだ内容を復習しましょう。授業で身につけた知識を定着させるように継続して取り組みましょう。また、応用問題にも取り組みながら、より深い理解と実践力をつけていきましょう。学習到達度確認問題や、定期考査で確認を行い、適宜、学習活動をリフレクションしながら学力向上に努めましょう。

③生物に関心を持ちましょう。

生物に関心を持つという観点から、授業では、現在行われている研究や最先端の生物学の話も展開する予定です。興味を持っている分野があったら、積極的に調べてみてください。(担当：川上)

教科	英語	科目	総合英語Ⅱ	単位数	5単位	学年（コース）	2学年（国際文化科）
使用教科書	数研出版「BLUE MARBLE English Communication Ⅱ」						
副教材等	Z会「速読英単語入門編」「速読英単語入門編単語練習ノート」 Z会「英文速読ドリル10 minutes 入門」「英文速読ドリル10 minutes Level1」						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜まず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

<p>英語学習の特質を踏まえ、五つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くこと）の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、外国語を用いて詳しくコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。</p>
--

### 3 指導の重点

<p>・日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。</p> <p>① 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすること。</p> <p>② 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすること。</p> <p>③ 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく論理性に注意して話して伝え合うこと。</p> <p>④ 聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく論理性に注意して話して伝えること。</p> <p>⑤ 聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく論理性に注意して文章を書いて伝えること。</p> <p>・ALT とのやりとりを通じて外国語の文化的背景に対する理解を深めることや、読解力の基礎となる背景知識の獲得を目指します。</p>
---

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。</li> <li>多様な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</li> </ul>	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解しようとし、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

#### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査</li> <li>・ 確認テスト</li> <li>・ パフォーマンステスト</li> <li>・ ワークシート、提出物</li> <li>・ 授業中の活動への取組状況</li> </ul> などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査</li> <li>・ 確認テスト</li> <li>・ パフォーマンステスト</li> <li>・ ワークシート、提出物</li> <li>・ 授業中の活動への取組状況</li> </ul> などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査</li> <li>・ 確認テスト</li> <li>・ パフォーマンステスト</li> <li>・ ワークシート、提出物</li> <li>・ 授業中の活動への取組状況</li> </ul> などから評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

#### 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Lesson 1 社会・人生	聞くこと 読むこと 話すこと [発表]	Leadership in Modern Times	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代社会において求められるリーダーシップについて</li> <li>・ エッセイの構成</li> </ul>	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート</li> <li>・ パフォーマンステスト</li> <li>・ 定期考査</li> </ul>
5	Lesson 2 地理・文化	聞くこと 読むこと 話すこと [やりとり]	The Diversity of traditional Houses	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各地の伝統的な住居の特徴と、現代におけるその価値</li> <li>・ スキミング</li> </ul>	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提出物、確認テスト</li> </ul>
6	Lesson 3 福祉・科学	聞くこと 読むこと 書くこと	Improving Society with Avatar Robots	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分身ロボットの特徵と、その開発の経緯</li> <li>・ スキャニング</li> </ul>	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート</li> <li>・ パフォーマンステスト</li> </ul>
7	Lesson 4 環境・社会	聞くこと 読むこと 話すこと [発表]	Approaches to Food Waste	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の食品ロスの現状と、その解決策</li> <li>・ 図形・統計資料の読み方</li> </ul>	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査</li> <li>・ 提出物、確認テスト</li> </ul>
8 9	Lesson 5 動物・福祉	聞くこと 読むこと 書くこと	Animals as Indispensable Partners	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私たちのよりよい暮らしと社会をサポートしてくれる動物</li> <li>・ クリティカルリーディング</li> </ul>	14	

10	Lesson 6 言語・文学	聞くこと 読むこと 話すこと [やりとり]	An Irish Poet on a Mission	・翻訳を通して日本文学の美しさを世界に広めるアイルランド出身の詩人 ・英文の情報構造	13	・ワークシート ・パフォーマンス テスト ・定期考査 ・提出物、小テスト
	Optional Lesson 2	読むこと	The Tales of Ise	・「伊勢物語」：ピーター・マクミランの英訳による平安時代の歌物語	14	
11	Lesson 7 社会・人権	聞くこと 読むこと 書くこと	Be Free from Gender Bias	・身近にひそむジェンダーバイアスとその解消に向けた取り組み ・未知語の推測	13	
12	Lesson 8 国際・平和	聞くこと 読むこと 話すこと [やりとり]	The Diminutive Giant Who Fought for Refugees	・国連高等弁務官の緒方貞子が行った難民への人道支援活動 ・英文の要約	14	・ワークシート ・パフォーマンス テスト ・定期考査
1	Lesson 9 環境・科学	聞くこと 読むこと 話すこと [発表]	Tackling Global Warming	・地球温暖化への対応策「ジオエンジニアリング」のメリット・デメリット	13	・提出物、小テスト
2	Lesson 10 人生・心理	聞くこと 読むこと 書くこと	Keys to Finding Happiness	・自分で幸せを切り開くためのコツ	13	
3	Optional Lesson 1	読むこと	The Good, the Bad and the Emmy	・演劇学部出身の主人公(筆者)がエミー賞を受賞するまでのサクセスストーリー	12	

計 160 時間 (55 分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・毎週学習内容に関する確認テストがあります。
- ・日々の課題として語彙力の獲得に取り組みます。
- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。
- ・考査毎にパフォーマンステストを実施します。

## 8 担当者からの一言

- ・テキストの内容や関連するトピックについて、話したり書いたりして自分の意見を表現し、聴いたり読んだりして他者の意見も共有し、考えを深めることや視野を広げることを楽しみましょう。
- ・自分が伝えたい内容が正しく伝わること、相手が伝えようとしていることを正しく理解するために必要な語彙・文構造を鍛えましょう。
- ・授業以外でも毎日英語に触れる時間を設け、英語力の定着を図りましょう。
- ・週1回程度で行われる ALT との授業では、英語でのやりとりを楽しみましょう。

教科	英語	科目	総合英語Ⅱ	単位数	4単位	学年（コース）	2学年（情報科学科）
使用教科書	数研出版「BLUE MARBLE English Communication Ⅱ」						
副教材等	Z会「速読英単語入門編」「速読英単語入門編単語練習ノート」 Z会「英文速読ドリル10 minutes 入門」「英文速読ドリル10 minutes Level1」						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜まず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

<p>英語学習の特質を踏まえ、五つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くこと）の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、外国語を用いて詳しくコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。</p>
--

### 3 指導の重点

<p>・日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。</p> <p>① 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすること。</p> <p>② 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすること。</p> <p>③ 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく論理性に注意して話して伝え合うこと。</p> <p>④ 聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく論理性に注意して話して伝えること。</p> <p>⑤ 聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく論理性に注意して文章を書いて伝えること。</p>
--

#### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。</li> <li>多様な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</li> </ul>	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解しようとし、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

#### 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査</li> <li>・ 確認テスト</li> <li>・ パフォーマンステスト</li> <li>・ ワークシート、提出物</li> <li>・ 授業中の活動への取組状況</li> </ul> などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査</li> <li>・ 確認テスト</li> <li>・ パフォーマンステスト</li> <li>・ ワークシート、提出物</li> <li>・ 授業中の活動への取組状況</li> </ul> などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査</li> <li>・ 確認テスト</li> <li>・ パフォーマンステスト</li> <li>・ ワークシート、提出物</li> <li>・ 授業中の活動への取組状況</li> </ul> などから評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

#### 6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Lesson 1 社会・人生	聞くこと 読むこと 話すこと [発表]	Leadership in Modern Times	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代社会において求められるリーダーシップについて</li> <li>・ エッセイの構成</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート</li> <li>・ パフォーマンステスト</li> <li>・ 定期考査</li> </ul>
5	Lesson 2 地理・文化	聞くこと 読むこと 話すこと [やりとり]	The Diversity of traditional Houses	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各地の伝統的な住居の特徴と、現代におけるその価値</li> <li>・ スキミング</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提出物、確認テスト</li> </ul>
6	Lesson 3 福祉・科学	聞くこと 読むこと 書くこと	Improving Society with Avatar Robots	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分身ロボットの特徴と、その開発の経緯</li> <li>・ スキャニング</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート</li> <li>・ パフォーマンステスト</li> </ul>
7	Lesson 4 環境・社会	聞くこと 読むこと 話すこと [発表]	Approaches to Food Waste	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の食品ロスの現状と、その解決策</li> <li>・ 図形・統計資料の読み方</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査</li> <li>・ 提出物、確認テスト</li> </ul>
8 9	Lesson 5 動物・福祉	聞くこと 読むこと 書くこと	Animals as Indispensable Partners	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私たちのよりよい暮らしと社会をサポートしてくれる動物</li> <li>・ クリティカルリーディング</li> </ul>	12	

10	Lesson 6 言語・文学	聞くこと 読むこと 話すこと [やりとり]	An Irish Poet on a Mission	・翻訳を通して日本文学の美しさを世界に広めるアイルランド出身の詩人 ・英文の情報構造	10	・ワークシート ・パフォーマンス テスト ・定期考査 ・提出物、小テスト
	Optional Lesson 2	読むこと	The Tales of Ise	・「伊勢物語」：ピーター・マクミランの英訳による平安時代の歌物語	10	
11	Lesson 7 社会・人権	聞くこと 読むこと 書くこと	Be Free from Gender Bias	・身近にひそむジェンダーバイアスとその解消に向けた取り組み ・未知語の推測	10	
12	Lesson 8 国際・平和	聞くこと 読むこと 話すこと [やりとり]	The Diminutive Giant Who Fought for Refugees	・国連高等弁務官の緒方貞子が行った難民への人道支援活動 ・英文の要約	12	・ワークシート ・パフォーマンス テスト ・定期考査
1	Lesson 9 環境・科学	聞くこと 読むこと 話すこと [発表]	Tackling Global Warming	・地球温暖化への対応策「ジオエンジニアリング」のメリット・デメリット	10	・提出物、小テスト
2	Lesson 10 人生・心理	聞くこと 読むこと 書くこと	Keys to Finding Happiness	・自分で幸せを切り開くためのコツ	10	
3	Optional Lesson 1	読むこと	The Good, the Bad and the Emmy	・演劇学部出身の主人公(筆者)がエミー賞を受賞するまでのサクセスストーリー	10	

計 128 時間 (55 分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・毎週学習内容に関する確認テストがあります。
- ・日々の課題として語彙力の獲得に取り組みます。
- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。
- ・考査毎にパフォーマンステストを実施します。

## 8 担当者からの一言

- ・テキストの内容や関連するトピックについて、話したり書いたりして自分の意見を表現し、聴いたり読んだりして他者の意見も共有し、考えを深めることや視野を広げることを楽しみましょう。
- ・自分が伝えたい内容が正しく伝わること、相手が伝えようとしていることを正しく理解するために必要な語彙・文構造を鍛えましょう。
- ・授業以外でも毎日英語に触れる時間を設け、英語力の定着を図りましょう。

教科	英語	科目	ディベート・ディスカッションII	単位数	2	学年（コース）	2学年
使用教科書	数研出版『EARTHRISE English and Expression II Standard』						
副教材等	文英堂『Stock 3000』、文英堂『Stock 3000 定着ノート』、旺文社『基礎力養成 コア表現トレーニング』						

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、三つの領域（話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くこと）の言語活動を通して、外国語を用いて詳しくコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。
--

### 3 指導の重点

<p>日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。</p> <p>① ある論題について、多様な語句や文を用いて、賛成または反対の立場を取った上で、論理的に一貫性のある議論を展開すること。</p> <p>② ディスカッションやディベートなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うこと。</p>
---

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開を理解し身に付けている。</p> <p>・情報や考えなどを効果的に伝える多様な表現を理解し身に付けている。</p>	<p>情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現したり、伝え合ったりすることができる。</p>	<p>情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現したり、伝えようとしている。</p>

## 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・パフォーマンステスト などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

## 6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	Part 1 Lesson 1		How interesting Japanese culture is!	さまざまな時を表す	6	・授業中の活動 への取組状況 ・定期考査 ・確認テスト
	Part 1 Lesson 2		Wonderful place to visit in Japan	可能・義務・必要などを表 す		
5	Part 1 Lesson 3		Precious water for all	「～される」などを表す	6	・提出物 等
	Part 1 Lesson 4		What has happened recently?	「～すること」などを表す		
6	Part 1 Lesson 5		I'm into music and movies!	doing / done を使って説明する	6	
	Part 1 Lesson 6		Where do you usually buy clothes?	人・物・時や場所などについて 説明する		
7	Part 1 Lesson 7		What kind of books do you like best?	比較を表す	6	・授業中の活動 への取組状況 ・定期考査 ・確認テスト
	Part 1 Lesson 8		Inventions that changed the way we live	仮定を表す		
8 9	Part 2 Lesson 1		Can you come to our party?	感謝する/謝罪する	6	・提出物 等
	Part 2 Lesson 2		I'm sure you can make it!	心配を述べる/励ます/感 想を述べる		
	パフォーマンス テスト			プレ・ディベート		
10	Part 2 Lesson 3		How about trying this food?	提案する/勧誘する/好みを述 べる	6	・授業中の活動 への取組状況 ・定期考査 ・確認テスト
	Part 2 Lesson 4		Tips for staying healthy	助言する/忠告する		
11	Part 2 Lesson 5		I'm taking part in some volunteer activities tomorrow	依頼する	6	・提出物 等

	Further Activity 1		パラグラフの構成①	Illustration / Listing(例示・ 列挙)		
12	Part 2 Lesson 6  Further Activity 2		Where would you like to live in the future? パラグラフの構成②	賛成する/反対する  Comparison / Contrast(比較・ 対照)	6	・授業中の活動 への取組状況 ・定期考査 ・確認テスト
1	Part 2 Lesson 7  Further Activity 3		Which candidate is the right person? パラグラフの構成③	意見を求める/意見を述べる  Cause and Effect(原因・結果)	6	・提出物 等
2 3	Further Activity 4		パラグラフの構成④	Time order(時間的順序・ 手順)	4	・授業中の活 動への取組状 況
	ディベートをし てみよう			ディベート	2	・パフォーマンス テスト
	パフォーマンス テスト			ディベート	2	

計 64 時間 (55 分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。
- ・考査毎に振り返りシートを記入し、提出することになります。
- ・ライティング課題をレッスンごとに提出してもらいます。
- ・パフォーマンステストを数回実施します。

## 8 担当者からの一言

ディベート・ディスカッション I で習得した知識・技能を活用して討論や協議を行います。今までに習ったことはしっかりと復習をしてください。1つのことでも多様な表現方法があることや、ライティングでも OREO 以外の構成があること等を学びますが、自分の意見を持つことも大切です。日ごろからいろいろなニュースに関心を向けましょう。また、意見交換を通して、視野を広げましょう。

教科	英語	科目	エッセイライティングI	単位数	2	学年（コース）	2学年（国際文化科）
使用教科書	数研出版『EARTHRISE English and Expression II Standard』						
副教材等							

### 1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間</p> <p>② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力</p> <p>③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供</p> <p>② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施</p> <p>③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施</p>

### 2 学習目標

文化・資源・健康などのさまざまなトピックについて読み聞きたり、ディスカッションしたりして、自らの考えを論理的に口頭や筆記で伝える力を育成する。

### 3 指導の重点

文化・資源・健康などのトピックについて、次のことができるようになることを目指します。

① 英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。

② 読んだり聞いたりした英文をもとに、自分の考えや意見を論理の構成や展開を工夫し、複数の段落を用いて述べることができる。

③ 書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりすることができる。

### 4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・英文に出てくる語彙や表現を理解し、身に付けている。</p> <p>・英文を読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。</p>	<p>・読んだ英文に対して自分の考えや意見を適切な理由や今後とともに複数の段落を用いて述べるができる。</p> <p>・書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりすることができる。</p>	<p>・読んだ英文に対して自分の考えや意見を適切な理由や今後とともに複数の段落を用いて述べようとしている。</p> <p>・書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりしようとしている。</p>

## 5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ライティング課題 ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・授業中の活動への取組状況 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ライティング課題 ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・授業中の活動への取組状況 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ライティング課題 ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・授業中の活動への取組状況 などから評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

## 6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Part 1 Lesson 1		How interesting Japanese culture is!	Let' write about... 【文化】	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エッセイ提出</li> <li>・ワークシート、提出物</li> <li>・確認テスト</li> <li>・授業中の活動への取組状況等</li> </ul>
	Part 1 Lesson 2		Wonderful place to visit in Japan	Let' write about... 【観光】		
5	Part 1 Lesson 3		Precious water for all	Let' write about... 【水資源】	6	
	Part 1 Lesson 4		What has happened recently?	Let' write about... 【ニュース・情報】		
6	Part 1 Lesson 5		I'm into music and movies!	Let' write about... 【映画・音楽】	6	
	Part 1 Lesson 6		Where do you usually buy clothes?	Let' write about... 【ファッション】		
7	Part 1 Lesson 7		What kind of books do you like best?	Let' write about... 【本】	6	
	Part 1 Lesson 8		Inventions that changed the way we live	Let' write about... 【発明・便利なもの】		
8 9	Part 2 Lesson 1		Can you come to our party?	Let' write about... 【パーティー】	8	
	Part 2 Lesson 2		I'm sure you can make it!	Let' write about... 【コンテスト・発表】		

10	Part 2 Lesson 3  Part 2 Lesson 4		How about trying this food? Tips for staying healthy	Let' write about...【食べ物・食事】  Let' write about...【健康】	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エッセイ提出</li> <li>・ワークシート、提出物</li> <li>・確認テスト</li> <li>・授業中の活動への取組状況等</li> </ul>
11	Part 2 Lesson 5  Further Activity 1		I'm taking part in some volunteer activities tomorrow パラグラフの構成①	Let' write about...【ボランティア】  Illustration / Listing	6	
12	Part 2 Lesson 6  Further Activity 2		Where would you like to live in the future? パラグラフの構成②	Let' write about...【暮らす場所】  Comparison / Contrast	6	
1	Part 2 Lesson 7  Further Activity 3		Which candidate is the right person? パラグラフの構成③	Let' write about...【選挙】  Cause and Effect	6	
2 3	Further Activity 4		パラグラフの構成④	Time order その他、既習事項を用いたエッセイライティング	8	

計 64 時間 (55 分授業)

## 7 課題・提出物等

- ・定期考査はありません。その代わりにレッスン毎にエッセイを書きます。
- ・その他、確認テストやワークシートの提出物があります。

## 8 担当者からの一言

この授業では、さまざまなトピックや身近なニュースを読み聞きしてエッセイを書いてもらいます。エッセイを書く上で大切なことは自分の意見を持つことです。さまざまなことに興味を持ち、自分の気持ちや考えを表現する練習をしていきましょう。